

教科（科目）	理科（生物基礎）	単位数	2 単位	学年（コース）	2・3 年次
使用教科書	実教出版『高校生物基礎』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自他を大切にできる豊かな心やコミュニケーション能力を育成します。 ②勤労観を身に付け、自立し、地域社会に貢献できる人材を育成します。 ③社会の変化に適応できる人間性と幅広い学びにチャレンジする精神を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①少人数制授業や授業における学びのユニバーサルデザイン化を図るとともに、ICT 等を活用しながら基礎・基本の学びを展開し、個に応じた指導を行います。 ②二人担任制や充実した教育相談体制により、社会への適応力や規範意識醸成のために生徒に寄り添った生徒指導を実践します。 ③自他を尊重し、よりよい人間関係を築くことで協働的に学び合う学習に取り組みます。 ④地域と連携したキャリア教育を充実させるとともに、個別最適な学びにより、生徒一人一人の進路指導を行います。

2 学習目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
--

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・生物の共通性と多様性、遺伝子とその働き、ヒトの体と調節、生物の多様性と生態系についての理解を促す。 ・身近な生物や生命現象を通して基本的な生物学の原理・法則を理解し、科学的な自然観や思考力を育成する。 ・中学校理科との関連を考慮し、知識・技能と思考・判断・表現を相互に関連させて、科学的に探究するために必要な資質、能力を育成する。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象について理解し、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	生物の共通性、ヒトの調節、多様性と生態系について、探究する過程を通じ、事象を科学的に分析・判断し、的確に表現することができる。	生物や生命現象に主体的に関わり、科学的に探究し、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査や小テストの分析 ・ワークシートやレポートなど課題の内容 から評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査や小テストの分析 ・実験や観察への取り組み ・ワークシートやレポートなど課題の内容 から評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業へ出席や取り組み ・ワークシートやレポートなど課題の内容 から評価します。
各観点について、「A：十分満足できる」「B：概ね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。			

6 学習計画

月	単元名	項目	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	1 生物の特徴	1-1 生物の多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性を持っていることを理解する。 ・生物の共通性と起源の共有を関連付けて理解する。 ・生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。 ・光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付けて理解する。 	19	課題と前期中間考査
5		1-2 生物とエネルギー			
6					
7	2 遺伝子とその働き	2-1 遺伝情報とDNA 2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴を理解する。 ・塩基の相補性とDNAの複製を関連づけて理解する。 ・DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を理 	19	課題と前期期末考査

9		遺伝情報とタンパク質の合成	解すること。 ・多様な生物が持つ共通の特徴を見いだして表現する。		
10	3	3-1 体内環境	・体内での情報伝達が体の調節に関係していることを理解する。 ・体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を理解する。 ・体内環境の維持を自律神経と関連付けて理解する。 ・異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。 ・神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現する。	16	課題と後期中間 考査
11		3-2 体内環境の維持のしくみ 3-3 免疫			
12	4	4-1 生態系とその成り立ち	・遷移の要因を理解する。 ・植生の遷移をバイオームと関連付けて理解する。 ・生態系における生物の種多様性を理解する。 ・生物の種多様性と生物間の関係性を関連付けて理解する。 ・生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解する。 ・生態系の保全の重要性を認識する。 ・生態系における生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現する。	16	課題と後期期末 考査
1		4-2 植生とバイオーム			
2 ~ 3		4-3 生態系と生物の多様性 4-4 生態系のバランスと保全			

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ワークシートや小テストを課し、提出を求めます。定期考査はこの内容をもとに行います。
- ・観察や実験では、レポートの提出を求めます。

8 担当者からの一言

真面目にこつこつと学ぶ姿勢を求めます。授業に熱心に取り組んで課題を提出し、復習をていねいに行って定期考査に臨んでほしい。学ぶことで得た知識や論理的な思考を用いて、ヒトの体や身の回りの生物、自然の理解を深めてください。